

「第11回こどものためのジオカーニバル」参加報告

特定非営利活動法人 地盤・地下水環境 NET 理事 奥田庸雄

平成22年11月6日及び7日の両日、大阪市立科学館で開催された「第11回こどものためのジオカーニバル」に、昨年に続き参加しましたので、その概要を報告します。

前回は、液状化現象実験の展示参加でしたが、今回は、「地下水の流れと利用」と題してセミナーに参加しました。



(1) セミナーの進行

セミナーでは、まずスライドを用いて、地下水とは何か、地下水の利用は、地下水の元は、地下の様子は、大阪平野の地下構造などを説明し、透水性の違いを確認する実験、ジオラマでの降雨実験を実施しました。



(2) 透水実験

実験は、ペットボトルを半分に切り、その中に、「小石」、「砂」、「粘土」を詰め、上から同量の水を入れて、透水性の違いを確認するものです。最初、スライドだけの話では、眠たそうにしていた子供の目が生き生きとしてきました。



(3) ジオラマ実験

大阪平野を再現するジオラマは、大きめのプラスチックケースに、不透水層を表すゴム板（地下水盆を形成するよう湾曲させています。）透水層の砂、森林を表すミズゴケ、都市の表面を示すプラスチック板（都市部の航空写真をラミネート）、井戸を表す茶漉し、そして、所々に穴の開けたストロー、ペットボトル、空気ポンプから構成された降雨装置で実験を行いました。

まず、センターテーブルで代表実験を行い、禿山の崩落、山麓からの湧水、都市部での鉄砲水、地下水盆内での地下水の存在、扇状地やデルタの形成などを確認しました。

次に、4ヵ所に別れ、同様の実験を子供達で行ってもらいました。途中、空気ポンプを押しすぎて、ペットボトルから水が噴出するなどのトラブルがありましたが、終始、楽しく実験をしていました。





(4) まとめ

全部で50分という制限もあり、まだまださわっていたいようでしたが、最後に、地下水は雨水が地下に貯まったもの。地下水は水道水源などに利用される貴重なもの。地下水を保全するには涵養源が大事。地下水汚染防止の重要性などをまとめとして、セミナーを終了しました。

(5) 参加者

6日、7日の両日とも、主に小学生の子供の他、その保護者、ボランティア参加の高校生、大学生を含め、約40名の参加がありました。



[N P O 参加者：中川康一、奥田庸雄、吉田光臣、中島載雄、和田昌泰]